

である。

2 診断に 3D 回転 DSA が有用であった膵十二指腸動脈瘤の 1 例

富永 真和・廣田 和也・春谷 正浩
松本 一則・池田 実徳・横田 隆司*
立川総合病院放射線科
同 消化器内科*

【目的】3D 回転 DSA は診断, IVR において欠かせないものになりつつある。今回の症例を通して 3D 画像や 3D 回転 DSA 撮影時のポイントを紹介いたします。

〔症例〕52 歳男性。突然の腹痛にて近医受診 CT にて腹部に血腫認め腹部アンギオ施行腹腔動脈閉塞, 膵十二指腸動脈瘤破裂と診断され当院に緊急搬送, 精査目的のため再度腹部アンギオ施行, 3D 回転 DSA を行い 3D 画像作成し, 治療方針を決定した。

【方法】DSA 装置 InfinixNS (東芝製) を使用して撮影 (アーム回転速度 40 度/秒で計 200 度, 造影剤は 4ml/秒で 6 秒間注入) した回転 DSA 像を Workstation (Zaio M900) にて画像処理して 3D 画像を作成した。

撮影時は体動抑制のため息止めを行い, その際補助として酸素吸入を行う。息止め時間を最小限にするため造影剤注入開始時間を工夫し撮影時間 (息止め時間) を短くした。

【経過】動脈瘤に対して Coil 塞栓術を行う前に, 腹腔動脈起始部閉塞のため Common Iliac a.-Hepatic a. Bypass 術を行った。その後 Coil 塞栓術を行った。術後 2 週間後, 半年後の腹部アンギオでも動脈瘤は塞栓され Bypass は開存している。

【結論】3D 回転 DSA 像は, 術前の評価や治療戦略の検討に有用であった。しかし, 3D 画像はあくまでも回転 DSA 画像の再構成画像であり, きれいで正確な 3D 画像を得るためには患者の体動を無くすため息止めが不可欠であり, 撮影前にしっかりと説明をして患者の協力を得ることが重要である。また的確な造影剤注入開始で血管描出の良好な回転 DSA 画像を撮影する必要がある。

さらに得られた 3D 画像は DSA 画像と合わせて評価することが重要である。

3 MRI にてホルモン産生を推定できたエストロゲン産生卵巣性索間質腫瘍の 1 例

梅津 元樹・宮崎 勝吉*・加勢 宏明**
佐藤 孝明**・関 裕史***
新潟県厚生連佐渡総合病院
放射線科・内科
同 臨床検査科*
同 産科婦人科**
県立がんセンター病院放射線科***

症例は 50 歳時閉経 3 経妊 3 経産の 80 歳女性。性器出血を主訴に当院産婦人科受診。経膈超音波で子宮内膜の年齢不相応の肥厚と子宮の左に腫瘍性病変を指摘された。また, 外観は年齢よりは若く見え, 内診で膈湿潤を認めた。MRI 検査では子宮の左背側に 10cm 大の腫瘍性病変を認め, 子宮には萎縮がなく, 年齢不相応に見えることからホルモン産生性の卵巣腫瘍を疑い性索間質腫瘍と考えた。術前のエストラジオール (E2) は 18.5pg/ml と閉経女性にしては高値を示した。腹式子宮全摘出術と両側付属器切除が施行され, 性索間質腫瘍の診断であった。術後エストラジオールは 4.6pg/ml まで低下した。

4 肺内リンパ節の診断

新妻 伸二

新潟県労働衛生医学協会

【目的】われわれの肺癌 CT 検診も 8 年となった。初期には小さな GGO の発見で驚喜していたが, 現在の主題は結節影の発見が変わった。そして治癒しうる肺癌を CT で見つけるには, 5mm 以下の結節影の発見を目指すようになっていく。そのため新たな障害陰影として, 肺内リンパ節 (以下 IPLN と略す) が登場してきた。今回はこの診断について述べたい。

【結果】この半年で 1,100 例の検査で, HRCT を

撮り臨的に IPLN と診断した例は男 62 例女 4 例計 66 例 83 個であった。これがすべて IPLN であるという確証は全くない。

【結語】努力目標としては、IPLN は 1 回は HRCT を撮影し診断をおこない、その後は調査対象から外すことである。そのためには可能な限り現状で診断をおこない、経過観察により経験例や、切除症例を増加することにより知識を正確にしていくしかないと思われる。

5 肺腺癌の radiological - mathematical correlation ～野口分類間の移行の検討～

古泉 直也・石川 浩志・森田 哲郎
谷 由子・奥泉 美奈・斎藤 友雄
笹井 啓資・菅野 敬祐*・児玉 直樹**
福本 一朗**

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍放射線医学分野
北里大学保健衛生専門学院*
長岡科学技術大学情報・制御工学
専攻**

肺腺癌の初期状態を SIZE RANKING 法と一次関数的増大モデル（拡散方程式モデル）を用い、野口分類 Type A 肺腺癌 53 病変、Type B・C 肺腺癌 72 病変について、移行の数学的検討をおこなった。10mm 以下では Type A 以外からの Type BC への移行、すなわち、癒痕癌等の存在が疑われた。11mm 以上で Type A 内の癒痕の出現、Type BC の非すりガラス病変変化が示唆された。

6 高分解能 CT 上の肺野限局性すりガラス病変 ～当科での対処法と経過観察例の検討～

谷 由子・古泉 直也・石川 浩志
森田 哲郎・根本 健夫・笹井 啓資

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍放射線医学分野

数年来当科の胸部外来では GGO 全例を精査または経過観察する方針で、縮小がなければ経過観察を継続している。2002 年度の同外来での高分解能 CT 上 GGO を認めた 80 症例を対象に検討を

行った。経過中増大を認めた 7 病変のうち最小のものは初回 CT で 8mm であり、7mm 以下の病変では経過観察間隔を延長できる可能性がある。2 例の高濃度のない GGO 増大例があり 1 例は比較的短期間で増大であった。逆に高濃度を伴う GGO の緩徐な増大例もあり、高濃度の有無で増大速度を予測するのは困難と考えられた。切除例 17 例のうち 8 例が多発例、7 例が術後残存病変があり、2 例は 2 回目の切除術を施行した。今後も経過観察例の増加は避けられず、間隔延長による効率化の可能性はあるものの、経時変化以外の質的評価法の確立が待たれる。

7 側脳室腫瘍の 1 例

大島 将之・竹内 茂和・谷口 禎規
大野 秀子・伊藤 寿介*
厚生連長岡中央総合病院脳神経外科
三之町病院神経画像診断センター*

症例は 57 歳、男性。交通事故にて、当科初診し、incidental に左側脳室腫瘍を認めた。CT 上は、石灰化と思われる high density mass で、一部に造影剤増強効果を認めた。MRI 上は、T1WI にて low ~ iso intensity, T2WI にて iso ~ high intensity であり、heterogeneous に増強効果を認めた。choroid plexus と septum pellucidum に接しているが、発生母地か否かは、はっきりしなかった。画像所見からは、intraventricular meningioma または central neurocytoma が疑われた。intraventricular meningioma としては、その局在や増強効果、central neurocytoma としては、その年齢や CT 所見が atypical な所見と考えられた。

8 稀な形態、走行を示した A1 の動脈瘤に対し GDC 塞栓術を行った 1 例

阿部 博史・渡邊 秀明・遠藤 浩志
立川総合病院循環器・脳血管センター
脳神経外科

前大脳動脈 A1 部が蛇行、coiling する異常走行を示し、その部に動脈瘤と fenestration を合併す